

本授業の主張点

「元気いっぱいの農業のまち」佐賀の実現を目指し、担い手不足で、農家が高齢化している状況の中、佐賀の農家や行政が力を入れるべき取り組み（アイディア）は何か、生産者と消費者にとってよりよい取り組み（アイディア）について討論する児童の姿をお見せします。

1 単元名 「わたしたちの暮らしと農業」～めざせ！元気いっぱい佐賀のまち～

2 単元の目標

佐賀の農家を取り巻く状況をもとに、農業を活性化させる取り組みを考えることができる。

3 評価規準「学力デザイン レベル2より」

- 農家の仕事に関心をもち、調べたことをもとに農業を活性化させる取り組みを意欲的に考えようとしている。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- 佐賀市の取り組みをもとにして、状況に応じた農業の活性化策を考え、適切な言葉で表現することができる。 (社会的な思考・判断・表現)
- 農家の仕事や消費者に生産物が届くまでの経路を、見学したり資料を活用したりして具体的に調べることができる。 (観察・資料活用の技能)
- 農家は消費者のニーズに応えるために様々な工夫や努力をしていることを理解することができる。 (社会的事象についての知識・理解)

4 単元設定の理由

(1) 児童の実態

本学級の児童は社会科学習に意欲的に取り組むことができる。既習単元「ごみとわたしたちの暮らし」では、佐賀市や地域の人たちがどのようにしてごみを減らそうとしているのか、清掃工場見学や家庭での聞き取り調査などを行い具体的に調べることができた。更に、ごみをもっと減らすために「生ごみ処理容器を全家庭に配布する」施策をとることの是非について考え、討論を行った。その際、佐賀市には一戸建て住居だけでなくマンションに住む人も多いという状況を重要視した場合、住まいや年齢、考え方などの違いによってよい影響を受けている人もいればよくない影響を受けている人もいるということに気付くことができた。しかし、そのことを根拠にしてより多くの人たちを考慮しながら是非を検討することに難しさを感じる児童も多かった。

また、本単元で扱う農家の仕事については、自分たちが学校給食や家庭で食べている農産物がどこでどのようにして生産され、届けられるのかについて関心をもっている児童は少なかった。

(2) 単元の意義

佐賀は豊かな自然の恩恵を受け、農業の盛んなまちである。しかし、現在、農家を取り巻く状況は厳しい。スーパーマーケット等では、年間を通した品揃えや安価な農産物を求める消費者のニーズに応えようと国内の他地域産や外国産の農産物が販売されており、生産者である農家には競争が余儀なくされている。農家は様々な工夫や努力をしているが、農家の生産量は天候や自然災害の影響を受けやすく、多様化する消費者のニーズに応えることは容易ではない。このような状況が、農家の安定収入を阻害し、担い手不足、高齢化の状況を引き起こしている。

本単元では、佐賀の魅力ある農産物を通した活気のあるまちづくりについて考えていく。目指すのは、農家の人たちが「農業は苦労も多いが、やりがいがある」と感じることができ、佐賀の人たちが「佐賀の農産物おいしい」と自慢に思い、さらには他地域の人たちがおいしいものを求めて佐賀に足を運んでくれるまちである。そのためには、自分たちの食を支えている農家の状況を深刻に受け止め、生産者である農家にとっても消費者である佐賀の人たちにとってもよりよい方法を模索していく必要がある。このような学習の場を設定することは、農家を取り巻く状況に応じて根拠のある考えをもたせ、わたしたち市民の暮らしを見つめ直すことができ、市民的パ

パフォーマンスを求める上でも意義深いと考える。

また、本単元では、状況に応じて政策のメリットやデメリットを考える経験をさせることで、資料を活用して筋道の通った意見を求めていく4年生からの学びにつなげていきたい。

(3) 指導上の着眼点（視点の具体化の側面から）

本単元では農家の仕事について理解を深め、農家を取り巻く状況をふまえながら、農家の人が元気になる取り組みを考えていくことをねらっている。その際、農家の人がどのような工夫や努力をしているのか、悩みがあるのかを把握し、状況をしっかりと見出し出した上で、農家にとってよりよい農政策（アイデア）について考えていくことを重視する。そのため、全16時間の単元の過程において以下の点に留意しながら指導を進めていく。

「であう／つかむ」過程では、佐賀の農家が元気いっぱいになるよいアイデアを農家と佐賀市長に提案するパフォーマンス課題を与える。給食の食材に使われている野菜を生産しているハウレンソウ農家の方のメッセージをビデオで伝えることで自分たちとのつながりを感じ、パフォーマンスに向けて意欲を高め、見通しをもたせることをねらう。

「調べる」過程では、まずハウレンソウ農家の仕事について調べさせ、農家の工夫や努力に気付かせる。その中でハウレンソウ農家の見学や聞き取り調査を行う場を設定し、農家の方の悩みや苦労を直接聞くことで切実感を高めたい。次に、佐賀市ではどのような農産物が生産されていて、農家がどのような工夫をしているのかを調べさせ、同じ悩みや願いをもつ農家が多いことに気付くことができるようにする。そして、農家から家や学校に届くまでの経路についても調べさせ、様々な人が消費者に高品質の物を届ける工夫や努力をしていることに気付くことができるようにする。最後に、農家の悩みやスーパーマーケットの野菜売り場を想起させ、農家に関わる様々な状況を見い出させる。この際、3年生という実態を考慮して、「他府県産や外国産との競争が激しくなっているという状況」と「担い手不足で農家は高齢化しているという状況」という自分たちの生活に身近な状況を見い出させたい。

「高める」過程では、まず2つの状況のうちどちらが重要なのかを、誰にどのようなよい影響やよくない影響があるのか状況を分析しながら比較・検討させ、重要視する状況を選択させる。そして、その状況に応じた「佐賀の農家の方が元気になるよいアイデア」を考えさせる。その際、よりよいアイデアをつくるために、市役所の取り組みを調べたり家庭での聞き取り調査をしたりする場を仕組み、行政や消費者の考え方を参考にして2つのアイデアに選別し整理する。その上で、重要視する状況においてどちらのアイデアに力を入れるべきか討論を行う。その際、関わる立場と受けている影響を書いた分析表を活用させ、状況に応じた意見をもてるようにする。

「ひらく」過程では、農家と佐賀市長に提案文を書き、互いに読み合う場を設定することで学びの高まりを実感させたい。更に、農家の方と佐賀市長に提案文を提出し意見をもらうことで自分たちのパフォーマンスが社会に貢献しているという実感をもたせるようにしたい。

5 指導計画（全16時間）（☐ 視点）

過程	時配	主な学習活動（○）と 予想される児童の反応（・）	指導上の留意点（○）	評価
であう／つかむ	1	○ パフォーマンス課題を知る。	○ 自分たちの給食の食材を生産している農家の人の願いをビデオで伝えることで、農家の仕事に関心をもち、パフォーマンス課題を捉えやすくする。	関
		パフォーマンス課題 「私は附属小の給食のハウレンソウをつくっている大和町の〇〇です。わたしたち佐賀の農家は、おいしい農産物を食べてほしいと思い、心を込めてつくっています。しかし、私たちがつくった農産物を食べてくれる人ばかりではありません。また、私たち佐賀の農家には苦労や心配なことも多いです。そのため、佐賀市役所の人たちが私たちのために色々な取り組みをしてくれています。附属小のみなさんにも、ぜひ、私たち佐賀の農家が元気いっぱい働けるよいアイディアを考えてほしいです。」 農家の方はこのようなメッセージを私たちに送っています。わたしたちの元気な体づくりを応援してくださっている佐賀の農家の方が元気いっぱい働けるよいアイディアを提案文に書き、〇〇さんと佐賀市長に届けよう！		

	2	○ 単元の評価基準を知る。 ・今、誰が、どのように困っているのかを根拠にして意見を書けばいいのだな。 ○ パフォーマンス課題を分析し、問いをつくる。 ・どうして、佐賀の人たちの中には佐賀の農産物を食べない人がいるのだろうか。 ・農家の人はどのようにして農産物をつくっているのかな。 ・人々はどんなことに気を付けて農産物を買っているのだろうか。	○ 前単元で書いた児童の提案文と教師が作成したルーブリックを提示することで、最終的なパフォーマンスと単元の学びへの見通しをもつことができるようにする。 ○ ビデオメッセージと課題の言葉に着目させたり、どうすれば佐賀の人たちが農産物をもっと食べるのか、今の自分の考えと友達の考えの違いに着目させたりすることで、調べるべき問いが明確になるようにする。 ○ 個人の問いを出し合い分類させることで、調べるべき問いと調べる方法を全体で共有し、調べ活動への見通しがもてるようにする。	
調べる	3 4 5 6 7 8 9	○ 農家の仕事について調べる。 ・ハウレンソウができるまでには色々な工夫があるのだな。 ・農家から集荷場、市場、スーパーマーケットに運ばれて家に届くのだな。 ・おいしい農産物をつくるために勉強もしているのだな。 ・人々は安心して食べられる食材を求めているのだな。 ○ 佐賀市の農家を取りまく状況を見い出す。 ・担い手不足で、農家の高齢化が進んでいる状況があるんだな。 ・他地域産や外国産の農産物もたくさん売られているという状況があるな。	○ ハウレンソウ農家で仕事の様子を見学したり質問したりする場を設定することで、農家の苦労や努力を実感しながら考えられるようにする。 ○ 佐賀市ではどのような農産物が生産されていて、農家がどのような工夫をしているのかを調べさせ、同じ悩みや願いをもつ農家が多いことに気付くことができるようにする。 ○ 農家から家や学校に届くまでの経路を調べさせ、様々な人が高品質の物を届ける工夫や努力をしていることに気付くことができるようにする。 ○ 農家の悩みやスーパーマーケットの野菜売り場を想起させる場を仕組み、状況を見い出させる。 ○ 状況マップをかかせることで視覚的に分かるようにする。 ○ 関連資料を提示し、農家を取り巻く状況についての実感がもてるようにする。	資・知
	10 11 12 13	○ 重要視する状況を比較・検討し、選択する。 ○ 「農家が元気になるよいアイデア」を考える。 ○ 佐賀市役所の取り組みや消費者の考え方を調べ、自分のアイデアと比べる。 ○ 「佐賀の農家が元気になるよいアイデア」を2つのプランに整理する。	○ どの状況を重要視するのか、状況に関わる立場と受けている影響の観点から状況を調べ、分析表を作成して比較・検討する場を設ける。 ○ 重要視する状況に応じた「農家を元気にするよいアイデア」を考えられるように、これまでの調べ活動を振り返らせる。 ○ よりよいアイデアをつくることができるように、佐賀市役所の取り組みを調べたり、家庭での聞き取り調査をしたりする場を仕組む。 ○ 佐賀市の取り組みの様子や聞き取り調査の結果を参考にして2つのアイデアに整理させる。	資・思
高める	14 15 (本時)	○ 討論をする。 「特に力を入れるべきアイデアはどちらか」 ・直売所を増やし、地産地消を強化 ・農業体験の機会を市民に多く提供し、食農学習を強化	○ 誰にとって、どのようなよい影響やよくない影響があるのかをまとめた、状況の分析表を活用して討論する場を設定することで、状況をもとにした意見をもてるようにする。 ○ 写真や映像の資料を見せることで、どういうアイデアなのかを把握できるようにする。	資・思
ひらく	16	○ 提案文を書く。	○ 単元のねらいを達成できるように、提案文を提出する目的と相手を明確に示し、ルーブリックを確認する。 ○ 互いの提案文を読み合う場を設定することで、学びの高まりを実感できるようにする。	資・思

6 本時の指導（本時 15／16）

(1) 目標

佐賀の農家が元気になるためのよいアイディアはどちらか、重要視する状況に応じた考えを表現することができる。【社会的な思考・判断・表現】

(2) 展開（ 視点）

学習活動（・児童の反応予想）	教師の働きかけ（○）と形成的評価（◆）
1. 重要視する状況と2つの取り組みを確認する。	○ 現在、誰にとってどのようなよいことやよくないことがある状況なのか、この状況を重要視する場合、地産池消と食農学習のどちらに力を入れるべきかを話し合う討論であることを確認する。 ○ 2つのアイディアについて明確なイメージがもてるように、写真資料で確認させる。
佐賀の農家を元気いっぱいにするためには、どの取り組みに力を入れるべきか。 担い手不足で、農家が高齢化している状況をもとに考えよう。	
2. 討論する。 (1) 立論する。 ○ 直売所を増やし、地産地消を強化 ・市場や色々な店にトラックで届けているので、それぞれの地域の直売所に届けるようにすれば、運転する時間が短縮され、体も疲れなと思います。 ○ 農業体験の機会を市民に多く提供し、食農学習を強化 ・農家の仕事には苦勞が多いので、農業を体験することで苦勞を実感し、佐賀の農産物を買う人が増えると思います。	○ 児童が自分の考えを主張しやすいように、例文を書いた討論用のワークシートに立論を書く時間を設ける。その際、重要視する状況をもとに検討できるように、分析表を活用し、農家や消費者などの立場が受けている影響の記述から自分の考えに線で結びながら立論を書かせる。 ○ 児童が立論する際には意見を板書し、もともなった立場と影響から考えを線で結ぶ。よい影響には＋，よくない影響には－の記号を板書し、互いの主張がよいことを生かしているのか、よくないことを解消しているのかを互いに確かめ合いながら話し合えるようにする。 ◆ 状況をもとに、どの取り組みに力を入れるべきかについて自分の考えをもつことができていないか。【ワークシート、発言】 ◎ 重要視する状況に関わる複数の立場や影響をもとに、自分の考えを書いたり主張したりしている。 ○ 重要視する状況に関わる立場や影響をもとに、自分の考えを書いたり主張したりしている。 →立論には出てこなかった別の立場や影響がないか尋ねる。 △ 重要視する状況に関わる立場や影響をもとに、自分の考えを書いたり主張したりすることができていない。 →状況の分析結果をもとに考えさせる。
(2) 反論する。 ○ 食農学習派への反論 ・佐賀産を買いたくても直売所が近くにない場合には、別の店に買い物に行き、他府県産を買ってしまうと思います。 ○ 地産池消派への反論 ・直売所を増やしても、悪天候の影響で農産物が不作の場合には店に出すことができないので、佐賀の人たちが買い物できずに困ると思います。	○ 反論を書く前に、互いの立論について、よい影響が生かされているのか、よくない影響が解消されているのかを確かめさせる。さらに、立論には出てこなかったよい影響、よくない影響が他にはないか考えるように促す。 ○ 児童が反論する際にも、立論の時と同様に板書を行い、互いの意見が重要視する状況をもとに述べているか確かめ合わせながら進行していく。 ○ 今後、ますます農家の高齢化が進んだ場合、くらしにどのような影響が出るのかを伝え、どちらがより効果があるのか、継続できる取り組み（アイディア）なのかを考えさせ、よりよい判断につなげさせたい。
3. 本時の学びをふりかえり、まとめの文を書く。	○ 状況を意識した話し合いができたことを賞賛するために、関わる立場と影響をもとにした考えを全体に紹介する。